



2025年1月30日発行 会報第1222号

今週のプログラム

(2025年 1月30日 第1222回例会)

「プログラムの確認」

プログラム担当：藤田芳浩会員

次週のプログラム

(2025年 2月 6日 第1223回例会)

今年度活動経過報告

各委員会

(クラブ奉仕・親睦・会員・情報)

第1221回例会 (2025年 1月23日) の記録

<会長の時間>

高尾 修会長

「ポリオ」という病気

ポリオ(急性灰骨髄炎)は、非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子供です。日本では一般に「小児まひ」と呼ばれることがあります。ポリオウイルスは人から人に感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。神経系を侵すこともあり、これによって身体の麻痺を引き起こす可能性が有ります。ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界中 25 億人以上の子供たちにワクチンを投与する活動を行ってきました。

1985年・・・国際ロータリーが民間による国際的な公共保健イニシアチブとして史上かつ最大規模となる「ポリオプラス」を開始。当初の募金目標は1億2,000万ドルでした。

1988年・・・国際ロータリーと世界保健機構(WHO)が「世界ポリオ撲滅推進活動」(GPEI)を立ち上げました。当時の症例数は、125カ国で推定35万件以上でした。

1994年・・・ポリオ撲滅認定のための世界委員会が南北アメリカ大陸からポリオが撲滅されたことを発表しました。

1995年・・・中国とインドで保険従事者とボランティアにより1週間で1億6,500万人に投与されました。

2000年・・・5億5,000万人(世界人口の1/10)にポリオワクチンが投与され、オーストラリアから中国にわたる西太平洋地域でのポリオ撲滅が発表されました。

2004年・・・アフリカの23カ国で8,000万人の子供を対象にポリオ予防接種活動が行われました。

2006年・・・ポリオ常在国がアフガニスタン・インド・ナイジェリア・パキスタンの4カ国となりました。

2009年・・・ポリオ撲滅に対するロータリーからの寄付総額が約8億ドル(1\$150円として1,200億円)になりました。同年1月、ビル&メリンダ・ゲイツ財団がロータリーからポリオ撲滅に2億ドルを寄付することを条件にロータリーに3億5,500万ドルの補助金を提供することを発表しました。合計で5億5,500万ドル寄付されました。現在、ポリオ常在国はアフガニスタンとパキスタンの2カ国となっています。ロータリーではポリオプラス基金寄付に\$50を推奨されています。

我々の寄付が、世界の子供たちのポリオ絶滅に寄与していることを強く認識しましょう。

<お客様> なし

<出席報告> 山本雅之 SAA 補助
会員数 17 名 (内出席免除会員 1 名)
本日の出席者数 13 名
(内出席免除会員 1 名・名誉会員 0 名)
本日の出席率 81.25%

<ロータリーソング> 全会員
♪我らの生業♪



<幹事報告>

藤田芳浩幹事

- 1、1月の理事会は、次週1月30日(木)「昼例会」終了後に予定いたします。
- 2、本日ご出席の西本明文会員・西本詩子会員には「新年例会」で皆様にお渡しした「福袋」としてのお土産を後ほどお渡しいたしますので、お持ち帰り願います。
- 3、2月に入りましたら「関西万博」に関しての新規企画を提案したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い致します。
- 4、次週以降の例会開催について、確認をお願い致します
*例会日時：1月最終週 1月30日(木)は、「昼例会」12:00開始
開催場所：江坂ゴルフセンターレストラン
「プログラムの確認等」です。皆様宜しくお願い致します。

<SAA報告>

山本雅之 SAA 補助

<スマイルBOX>

※ニコニコ奉仕金

柳原会員 今日楽しい卓話です。
西本詩子会員 高尾様いつもお世話になります。
相原会員、高尾会員、西本明文会員 コメントなし

※米山記念奨学会

柳原会員 これから忙しくなります。よろしく！
高尾会員 西本ご夫妻、本年もよろしくお願ひいたします。
西本明文会員、小山会員、山本雅之会員 コメントなし

※ロータリー財団

藤田会員 理事会は、次回1月30日「昼例会」で開催します！！

※メイプル基金

柳原会員 卓話の準備に疲れます。
藤田会員 柳原会員、卓話宜しくお願ひします。
岸上会員、西本明文会員、小山会員 コメントなし

※ラオス基金

水島会員 山本加奈子先生は、ラオスに行きはるのかな？

姓名判断を信じますか？

親は、子供に名前を付けるとき、どうか「幸せな生涯」が送れますようにと、考えるのではないのでしょうか。しかし、たとえ同じ名前であっても、「全く違った」人生を送ることがあるのかもしれない。これから二人の「節子さん」をご紹介します。

最初の節子さん「堀合節子さん」(1886-1913)は、岩手県に明治19年に生まれました。

お父さんは「士族」で、多くが維新で「没落」したのに、うまく世を渡り最後は「村長」になりました。この親の元で「蝶よ花よ」と育てられ、やがて、「女学校」を卒業しました。そんな彼女の前に「一人の男」が現れました。後世の評価では「日本文学史」上に、「燦然」たる輝きを放つと言われる男であります。彼女は、この男に、「完全」に心惹かれたのであります。どうしても、結婚したかった彼女は、自分のお父さんに「(彼の子を)妊娠している。」と嘘をつき結婚に漕ぎつけました(～BGM 山本リンダ「どうにもとまらない」)。

「堀合節子さん」



石川節子(啄木没後)
©石川啄木記念館

「石川啄木との婚約写真」



しかし、この結婚生活は、早々と「破綻」を迎えました。その理由は、夫の「石川啄木」が、どうしようもない「人でなし」の人だったからです。彼の一面は、「嘘つき」「詐欺師」「二枚舌」「無責任」等の、「どうしようもない男」であったからです。そのため、生活費もままならなくなり、彼女は自分で職(代用教員等)を探さなければいけなくなりました(～BGM 山崎ハコ「流れ酔い唄」)。そんな彼女や家族をほったらかしにしていた啄木も、ついには、東京で家族(妻・母・子供等)と同居することになりました。しかし、その生活は、「惨め」なものでありました。

そして、啄木が「結核」で亡くなり、それを負うように彼女も翌年同じ病で亡くなり(啄木と結婚後約7年)ました。二人の間にできた子供たちも、若くして亡くなりました。

だから「節子」という名は、「良くない」のかなと思いますが、ここに、もう一人の「節子」さん「小泉節子さん※」(1868-1932)を紹介します。(※戸籍上の名前は小泉セツ)この人は、島根県の松江に慶応4年に生まれました。この方のお父さんも「士族」でありましたが、維新で没落してしまいました。そのため、「利発」な子でありましたが、わずか11歳から家のために、「織子」として働かざるを得ませんでした。年頃になり結婚しましたが「夫」はあまりの「貧乏な生活」を嫌って、出奔してしまいました。

「小泉節子さん」

KWAIDAN 120 小泉セツ 2024.6.27.thu
 小泉八雲『怪談』出版120年
 小泉八雲『怪談』出版120年
 小泉八雲没後120年
 小泉八雲記念館開館90年
 『怪談』出版120年
 小泉八雲没後120年
 小泉八雲記念館開館90年
 ラフカディオ・ヘーン
 妻として生きて
 セツ
 小泉八雲
 2025.6.8.sun
 小泉八雲記念館
 Lafcadio Hearn Memorial Museum
 Lafcadio Hearn's Wife
 小泉セツ | 小泉家
 小泉八雲 4・セツ 祝賀展 | 1903年7月25日 - 1904年8月19日 | 小泉八雲記念館
 【資料】セツの絹織物展 | 小泉八雲記念館
 Kiyomasa Setai | The Kotonami Family
 Lafcadio Hearn Memorial Museum
 BACKGROUNDS: Samples of weaving by Setai | Lafcadio Hearn Memorial Museum
 Jun 27 2024 - Jun 8 2025 | Lafcadio Hearn Memorial Museum

その後、寂しく暮らしていた彼女に、「女中」としての話が持ち上がりました。相手に会った彼女は「びっくり」しました。なんと、相手の男は、「外国人（イギリス人）」の、しかも「初老（40歳）」の男でありました。

「ラフカディオ・ハーン」



ここで、この相手の男「ラフカディオ・ハーン」に付いてご紹介します。

この男は、大変な「苦労人」でありました（～BGM 北島三郎「風雪流旅」）。幼くして、両親（父がイギリス軍人・母がギリシャ人）が離婚し、その両親から捨てられるようになりました。幸い大叔母が資産家であったため、17歳まで教育を受けることが出来ました。しかし、16歳で左目を失明する事故にあい、なんと、17歳の時に頼みの「大叔母」が破産してしまいました。このため、誰に頼る事も出来なくなった彼は、「新天地」アメリカを目指したのであります。その後、持ち前の「才覚」を生かし、「新聞記者」等として、身を立てることが出来たのであります。そんな彼が、35歳の時に「万国博覧会」に記者として参加し、そこで、「アジア極東の国（日本）」への「憧れ」「憧憬」が、「勃然」と芽生えたのであります。何とかして、「日本」に行きたいと思った彼は、特派員として来日し、ついには「英語教師」として島根県尋常中学にやって来たのであります。ここで、「小泉節子さん」と出会ったのであります。

二人は結婚し幸せな家庭を持ったのでありますが、ここに一つの問題が生じました。それは、その当時「外国人」の夫が亡くなると、その日本人の家族（妻・子供）が財産を相続出来ない事になっていました。題を解決しようと考えました。これによって、日本人「小泉八雲」が誕生したのであります（～BGM 加山雄三「君といつまでも」）。小泉八雲は、節子さんから日本の「民話」「昔話」等を聞いて、多くの「怪談」を英訳し世に出しました。節子さんは、この業績に多大の貢献を行ったのであります。そして彼らの間に「4人」の子供が生まれました。それぞれの子は、十分な「教育」を受け、多くの人に多大の貢献を行いました。

この様に、たとえ同名であっても、その「人生」には大きな違いが出てくるのかと思います。そうなると、子供に「名前」を付けるに当たっても、そんなに気にすることもないのかとも思います。たかが「名前」、されど「名前」でしょうか。

